

あとがき

昨年の最大の出来事は政権交代で、そのほかに新型インフルエンザなどがある。そこで今回は日本のワクチン行政の問題点を述べてみたい。

新型インフルエンザにより老人の肺炎の増加が懸念され、肺炎球菌ワクチンがマスコミの話題に上るようになったが、肺炎球菌ワクチンの接種は、すでにWHOにより推奨されており、1999年のアメリカでは、すでに65歳以上の半数以上の人が接種している。しかし、日本では「脾臓摘出患者の肺炎球菌感染症予防」以外にワクチン接種の保険適用がなく、また再接種は禁じられている。しかし米国では、普通に免疫能を有する人が65歳未満でワクチンを接種した場合、65歳以上になり、かつ前回の接種から5年以上経過した場合は2度目の再接種が推奨されている。

もう1つのワクチンはヒブ(Hib)という「インフルエンザ菌b型」(小児の細菌性髄膜炎の最も頻度の高い原因菌)に対するワクチンである。ヒブワクチンの効果は劇的で、今やヒブによる重症感染症が存在するのは、先進国のなかで日本だけである。このワクチンは1990年代から、欧米で導入され、2008年には、アジア・アフリカを含む110か国以上で使用されている。日本でも日本小児科学会などからの再三の要望により、ようやく使えるようになったが、先進国に遅れること20年、2007年の時点で、東アジアで有料でも接種できないのは、日本と北朝鮮の2か国という状況だった。この日本のワクチン行政の遅れは、世界で当たり前の麻疹ワクチンの2回接種が、わが国に導入されたのが2006年からで、その遅れのために世界から日本は「麻疹輸出国」とまで非難されている(いた)ことを思い出せば納得できるかもしれない。

その他にも種々の未認可あるいは健康保険が認められていないワクチンがある。このような行政の無作為は、厚労省が薬害で訴えられることを懸念しているためか、あるいは天下り先の確保のためかは不明であるが、無作為でも罪に問われることを認識すべきである。このように日本はワクチンに限らず、アジア諸国の中でも最低の治療手段しか持ち合わせていない。せめて東南アジアには追いついてほしいものである。(渡辺 晋一)

〔編集委員〕

瀧川 雅浩
伊藤 雅章
塩原 哲夫
渡辺 晋一
天谷 雅行
中川 秀己

学会・研究会のお知らせ掲載

皮膚科関連学会・研究会のお知らせを無料で掲載いたします。開催期日(演題募集がある場合は締切日)の3か月前までに本誌編集室までお寄せください。

臨床皮膚科 (第64巻 第1号)

2010年1月1日発行(毎月1回1日発行)

定価2,835円(本体2,700円+税5%)

(2010年々ぎめ予約購読料 39,930円
電子ジャーナル閲覧オプション付
52,000円
増刊号を含む13冊・税込・送料小社負担)

(担当:小松原・安部)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5715

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

E-mail: rinhifu@igaku-shoin.co.jp

振替口座 00170-9-96693

印刷所 三美印刷(株) 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2010, Printed in Japan.
- 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- **JCOPY** <(有)出版者著作権管理機構 委託出版物>
本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(有)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。
- 医学書院ホームページ(インターネット)は<http://www.igaku-shoin.co.jp>です。
- 「臨床皮膚科」URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/rinhifu/>